日本映像事業協会「ヤング映像クリエーターを励ます賞」

AX-ON鈴木氏「お父さんは2度死ぬ」で最高賞

全国の番組・CM制作会社など215社が加盟する、協同組合 日本映像事業協会（J・VIG、澤田隆治会長）は1月30日、都内のホテルで開催された賀詞交換会に先立ち、「ヤング映像クリエーターを励ます賞」と、「澤田隆治（たかはる）賞」の表彰式を開催した。「澤田隆治賞」は、J・VIG20周年を記念した今年度限りの賞。表彰式はそれぞれわけて実施。「ヤング映像クリエーターを励ます賞」の最高賞である「経済産業大臣奨励賞」を受賞したのは、テレビ番組「お父さんは二度死ぬ」（NHK BSプレミアム、全4話、2013年6月放映、主演・南沢奈央）の制作統括を担当した鈴木亜希乃氏（日テレアックスオン）。また、澤田隆治賞の最高賞であるグランプリは、ザ・ワークスの「讀賣テレビ開局55年記念ドラマ『泣いたらアカンで通天閣』」（讀賣テレビ）が受賞した。

目立つ女性の活躍

『若手の発掘は業界の発展に必須』

澤田会長（左）と、AX-ON鈴木氏

◆「若いリーダーが出ると業界は発展する」

「ヤング映像クリエーターを励ます賞」は、同協会が平成11年に創設したもの。放送文化の豊かで活力のある未来を目指し、協会加盟企業に所属している30歳以下のクリエーターの中から、才能豊かで将来性のある新人を選んで表彰している。平成15年からは、中でも特に優秀なクリエーターに「経済産業大臣奨励賞」の業界はそうした若手が出にくい。そんな中で、この賞は30歳以下という若い人を対象にしている。この年齢にかなりこだわった」

◆「テレビ局の理解に感謝」

「ここ数年の傾向」として、受賞者に女性が多いという点を挙げ、次のように述べた。

「女性の手掛ける作品はこれまで、なかなか賞に結びつかなかったが、今回、優秀賞も、経済産業大臣奨励賞も女性になった。がんばっている若い人たちが増えたということは、ほんとうにうれしい」

澤田会長

審査委員長を務めた、J・VIG会長の澤田隆治氏は冒頭、同賞のねらいについて次のように述べた。

「若いリーダーが出てくると、その業界は発展する。しかし、私たちの業界はそうした若手が手掛ける作品について、「かなり大型のドラマを若い人たちがつくるチャンスが出てきた」ことも今年の傾向であると述べ、そうした状況について「プロダクションの努力もあるし、なによりもテレビ局側のプロデューサーが認めてくださったからこそ、チャンスがある。ほんとうに感謝したい。この企画は、そうした理解なしには絶対に成り立たない賞であるということを改めて感じる」と謝意を表した。

◆「番組作りの常識を覆した」

「経済産業大臣奨励賞」を受賞したテレビ番組「お父さんは二度死ぬ」の制作統括を担当した鈴木亜希乃氏。

鈴木氏

審査を担当した澤田氏は次のように評した。

「このドラマを最初見たときに、『これはなんだろう』と思った。騙されながら見ているうちに最後に『やられた』という感じの作品。長いといろいろなものを見てきた僕が騙された。これまで、テレビは分かりやすくないとだめだと、いわれていたのに、この作品はそれを覆した。最近になく、おもしろい。連続性のあるドラマとしてはすばらしい作品だった」

◆「真実を伝えるフィクションを」

鈴木氏は、受賞の喜びを次のようにコメントした。

「上司が『企画書はラブレターだ』といっていたことを思い出し、身近な人にあてて書いてみたのがこの企画。ドラマは偽物ということでいろいろな批判を受けることもあるが、ドラマだからこそ、伝わる真実があると、幼い頃からドラマを見ていた者として思う。父が死んでしまったら、という設定で父のことを考えたとき、普段言えないようなことも、フィクションだからこそ言えるということもある。これからも、真実を伝えられるフィクションを作っていきたい」

前列が受賞者（右から3番目は、受賞作主演の南沢奈央）、後列が審査員

「ヤング映像クリエーターを励ます賞」の受賞作品

◆経済産業大臣奨励賞
鈴木亜希乃（日テレアックスオン）
「お父さんは二度死ぬ」（NHK BSプレミアム）

◆優秀賞
相沢あやさ（NHKエンタープライズ）
「それでも気仙沼で生きる～フィリピン人女性たちの再出発～」（NHK）
高明希（日テレアックスオン）
「スペシャルドラマ『人生がときめく片づけの魔法』」（日本テレビ）
佐藤洋輔（NHKエンタープライズ）
「ザ・プレミアム『探訪　巨大ターミナル』」（NHK）

◆努力賞
村松遊介（朝日メディアブレーン）
「ピエール瀧のしょんないTV」（静岡朝日テレビ）

◆ホープ賞
小段好（c－block）
「Rの法則　#337～脈ありサイン～」（NHK Eテレ）

協会20周年記念「澤田隆治賞」

「泣いたらアカンで通天閣」が最高賞

ザ・ワークス

左から、ザ・ワークスの霜田氏、位部氏、高橋優子氏

◆20年にわたる各社の作品から選出

澤田隆治賞は、ザ・ワークスの「讀賣テレビ開局55年記念ドラマ『泣いたらアカンで通天閣』」（讀賣テレビ）が受賞した。

澤田隆治賞は、J・VIGに加盟している正組合員各社への設立20周年記念として企画された今年度限りの特別表彰イベント。「おもろい作品」をテーマに、ジャンルを問わず、正組合員各社が過去20年の間に制作した地上波、BS、CS、CM、ケーブルテレビ、携帯電話・ネット配信映像などの全放送配信メディアの中から優秀賞2作品、グランプリ澤田隆治賞1作品が選ばれた。

澤田氏は、冒頭のあいさつで「テレビ番組はいろいろな形でおもしろくなければいけない。コメディやバラエティに限らず、ドキュメンタリーやドラマにおいても、見ていて『おもしろい』ということが伝わることが重要。われわれの仲間が作ってきたおもしろい番組を表彰するチャンスをいただいたということで、私は非常に感謝している」と語った。

◆「現場に関西のエネルギーを充満」

澤田隆治賞グランプリに輝いた、ザ・ワークスの「『泣いたらアカンで通天閣』」について澤田氏は次のように話した。

「この通天閣の近くのお祭りを長年担当しているほど近所に住んでいる。どんな作品か楽しみにしていた。いろいろな思いで作品を見て、良くできていると思った。非常に大阪的なドラマを久しぶりに見た」

グランプリを受賞したザ・ワークスの霜田一寿氏は、受賞した喜びを次のように語った。「主に関西出身のスタッフ、キャストを集め、現場に関西のエネルギーを充満させた。それがうまくいった要因だったのでは」。

また、演出を担当した位部将人氏は「ネット社会で、人と人との繋がりが希薄な時代の中で、標準語で語るよりももっと雄弁な、メッセージ性のあるドラマになった」と述べた。

このほか澤田隆治賞優秀賞は、以下の2作品が受賞した。

アズバーズ：テレビ朝日 木曜ドラマ「DOCTORS2 最強の名医」

G・カンパニー：劇場公開版映画「お日柄もよくご愁傷さま」